

# 銚子市におけるいちご栽培管理技術の改善

## ～中休みに対する定植後の遮光効果を検討～

### 1 課題の目的

いちごの頂花房と第一次腋花房の収穫時期の間に生じる中休みの解消を目的として、定植直後の一時的な遮光の強弱がいちごの開花時期に及ぼす影響を調査した。

### 2 課題の背景

- (1) 銚子市苺組合員の約半数が11月上旬からの早出しを目指して「夜冷短日育苗」を行っているが、厳冬期中休みが問題となっている。
- (2) 銚子市苺組合の視察研修会で訪問した福岡県の生産者ほ場では、定植後に一時的に遮光率を高めて定植直後の高温を回避しつつ、第一次腋花房の花芽分化を促進させる取組が行われていた。この技術に興味を持った一部の生産者が一時的な強遮光を実施している。
- (3) 銚子市内におけるいちご栽培において、一時的な強遮光に対するいちごの花芽分化への影響は明らかにされていない。

### 3 普及活動の経過

- (1) 生産者との打合せ

強遮光区（二重被覆、30%遮光資材+60%遮光資材）と弱遮光区（一重被覆、30%遮光資材）の2つの試験区を設け、強遮光区は定植日の9月8日から約3週間、弱遮光区は定植日の9月11日から約1か月間遮光した。



強遮光したハウス

- (2) 生産者への聞き取り

栽培管理方法や生育状況について随時聞き取りを行った。

- (3) ハウス内外環境の調査

株元付近の気温及び深さ10cmの地温、日射量、ハウス外の日射量を測定した。

- (4) いちごの生育調査

頂花房と第一次腋花房の開花確認日、開花数等を調査した。

### 4 普及(調査)活動で得られた成果

- (1) 遮光期間中の晴天日における正午頃の株元付近の日射量は、強遮光区がハウス外の68%減、弱遮光区が29%減となった。

(2) 遮光期間中における株元気温の日最高温度平均は、強遮光区は 27.2℃、弱遮光区は 29.1℃となり、強遮光区が 1.9℃低かった。地温の日最高温度平均は、強遮光区は 23.7℃、弱遮光区は 26.0℃となり、強遮光区が 2.3℃低かった。

いちごの生育適温は 18～25℃であるが、株元気温における 25℃以上の積算時間は、表 1 のように、強遮光区は 54 時間、弱遮光区は 75 時間となり、強遮光区が 21 時間短かった。

表 1 遮光期間中（2019 年 9 月 18 日～9 月 28 日）の日最高温度平均

試験区	遮光期間中の日最高温度平均		株元気温
	株元気温 (°C)	地温 (°C)	25℃以上の積算時間 (時間)
強遮光	27.2	23.7	54
弱遮光	29.1	26.0	75

(3) 強遮光区及び弱遮光区における頂花房開花から第一腋花房開花までの日数はそれぞれ 55 日、60 日となり強遮光区の方が 5 日短かった（表 2）。

表 2 頂花房と第一次腋花房の開花確認日

試験区	定植日	定植日から開花確認日までの平均日数±標準誤差 (日)	
		頂花房	第一腋花房
強遮光	9月8日	39±0.9	94±1.1
弱遮光	9月11日	46±0.6	106±2.2

(4) 頂花房の開花数は強遮光区で 22 個/株、弱遮光区で 18 個/株であった。また、第一次腋花房の開花数は強遮光区で 25 個/株、弱遮光区で 16 個/株であった。

(5) 以上の結果から、一時的な強遮光が中休みの改善に効果的であると考えられた。

## 5 問題点と今後の展開方向

定植日やハウスの位置など、試験実施の際の条件を揃えて引き続き生育調査を行い、一時的な遮光の効果を明らかにする。

また、得られた結果を元に銚子市苺組合に対して情報提供を行う。

(銚子グループ 普及技術員 加藤 万穂)